

1 ヨーロッパにおける国家の歴史について述べた以下の文章を読み、下線部(1)~(10)に関する問いについて、a~dの選択肢の中から答えを1つ選び、マーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。また、波線部A~Cに関する問いの答えを、記述解答用紙の所定欄に記入しなさい。

古代地中海世界では、ギリシア世界のポリスにせよ、共和政ないし帝政のローマにせよ、国家とは都市を単位とし、市民の自治に根差した都市国家⁽¹⁾だった。そこで生まれた自由な市民の共同体としての国家⁽²⁾は、近代に至るまでのヨーロッパの国家のあり方に根本的な影響を与えてきた。

これに対して、中世ヨーロッパを構成した王国という国家の形は、身分制社会という要素を含みつつ、近代にいたる国家の枠組みとなっていく。フランク王国⁽³⁾に関する評価は難しい問題だが、少なくともカール大帝が打ち出した国家の形は、その後のヨーロッパ諸国の出発点となった。11世紀からは、イングランドやイベリア半島の諸王国⁽⁴⁾が比較的早くから中央集権的な統治を実現し、フランスがそれに続く一方、イタリアでは都市国家⁽⁵⁾中心の体制が近代にいたるまで存続した。ドイツでは、12世紀以降、神聖ローマ帝国の支配体制が機能しない状態が進行し、多数の領邦国家⁽⁶⁾が自立的な統治を行っていった。

16世紀以降、絶対王政⁽⁹⁾を通じて確立した官僚制と常備軍による統治という形は、フランス革命などに代表される変革を経て、国民国家が形成されたのちも、現在に至るまで続いている。これらの事実は、現在の国家を考える際の根本的な歴史的視点であるだろう。

- (1) ギリシアの植民市ではないものはどれか。
 a テイルス - カルゴゴ建設
 b ビザンティオン (ビザンティウム)
 c マッサリア - フェモリス都市
 d ミレトス

- (2) 古代ローマの社会と文化について、正しい説明はどれか。
 a 共和政ローマの統治に大きな影響を与えた元老院 (セナトゥス) の呼称は、その後の多くのヨーロッパ諸国の議会制において「下院」の名称となった。
 b 万民法に発展したローマ法は、「ローマ法大全」という形でトリボニアヌスらによって集大成された。
 c コンスタンティヌスは、ローマに今も残るコロッセウムを建設させた。
 d ミラノ勅令により、キリスト教はローマ帝国の国教となった。by ヴェスパシウス帝 完成:ドミティアス帝 公認 国教化は392年、テオドシウス帝

- (3) フランク王国について述べた次の文①と②の正誤の組合せとして、正しいものはどれか。
 ① クロヴィスは、ニケーア公会議で正統とされたアタナシウス派のキリスト教に改宗した。
 ② カール大帝により、地方に巡察使が派遣されて、伯の監督にあたった。
 a ①-正 ②-正
 b ①-正 ②-誤
 c ①-誤 ②-正
 d ①-誤 ②-誤

- (4) 以下のイングランドの王朝を古い方から時代順に並べた場合に、3番目に来るものはどれか。
 a テューダー朝
 b プランタジネット朝
 c ヨーク朝
 d ランカスター朝

b → d → c → a
 プランタジネット → 1455 → テューダー

- (5) 中世イベリア半島の諸王国について、正しい説明はどれか。
 a 国土回復運動 (レコンキスタ) は、すでに12世紀までには、イベリア半島のほぼ北半分をキリスト教圏に収めていた。
 b アラゴン王国は、イスラーム支配下のゴルドバを征服した。
 c カステイリヤ王国は、地中海に進出して、シチリア島も支配した。
 d ポルトガル王国は、12世紀にアラゴン王国から独立する形で成立した。
 1236年カステイリヤ王国の併合
 アラゴン王国
 カステイリヤ王国

- (6) フランスについて、誤っている説明はどれか。
 a クレシーの戦いでは、フランスの騎士部隊がイギリス軍の長弓兵の活躍により敗北した。
 b シャルル7世は、常備軍を整備して、軍制の強化を図った。
 c フィリップ2世は、アルビジョワ派 (カタリ派) を征服した。
 d フィリップ4世は、いわゆる「教皇のバビロン捕囚」を引き起こした。

- (7) イタリアについて述べた次の文①と②の正誤の組合せとして、正しいものはどれか。
 ① 11世紀にフランチェスコがアッシジに創設したフランチェスコ修道会は、都市に拠点を置く托鉢修道会のひとつである。
 ② 現存する最古の大学とされるボローニャ大学は、ローマ法の研究の中心地だった。
 a ①-正 ②-正
 b ①-正 ②-誤
 c ①-誤 ②-正
 d ①-誤 ②-誤
 1096年の十字軍で(商業)都市が復活

- (8) ドイツについて述べた次の文①と②の正誤の組合せとして、正しいものはどれか。
 ① 12世紀以降の、エルベ川以東の地域へのドイツ人植民運動は、バルト海沿岸部にドイツ騎士団領を生み出した。
 ② ハンザ同盟は、デンマーク王国と戦いつつ、北海とバルト海沿岸地域の商業の中心となり、14世紀に最盛期を迎えた。
 a ①-正 ②-正
 b ①-正 ②-誤
 c ①-誤 ②-正
 d ①-誤 ②-誤

- (9) 絶対王政期のヨーロッパ諸国について、誤っている説明はどれか。
 a イングランド国王チャールズ1世の専制支配は、権利の請願によって議会から非難された。
 b 七年戦争の結果、マリア=テレジアのハプスブルク家領の継承が初めて承認された。
 c 三十年戦争の結果、スウェーデン王国は、バルト海南岸にまで領土を得た。
 d ルイ14世は、自身の孫をスペイン国王とした。
 オーストリア継承戦争で承認

- (10) フランス革命に関する以下のことがらを古い方から時代順に並べた場合に、3番目に来るものはどれか。
 a 第1回対仏大同盟の結成
 b 第一共和政の樹立
 c テルミドール9日のクーデタ
 d ルイ16世の処刑
 b → d → a → c
 1792 1793 1793 1794.7
 第一回対仏大同盟の結成、徴兵制による反乱

設問A バトリキとプレブスの法的平等を最終的に達成した法令の名称を記せ。

設問B イタリアの都市国家のなかで、18世紀後半に至るまでコルシカ島を支配した都市の名称を記せ。

設問C ドイツの領邦国家に関して、プロイセン王国を支配した家門の名前を記せ。

A. ホルテンシュタット法
 B. ジェノヴァ
 C. ホーエンツォレルン家

2 人の移動について述べた以下の文章を読み、下線部(1)~(10)に関する問いについて、a~dの選択肢の中から答えを1つ選び、マーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。また、波線部A、Bに関する問いの答えを、記述解答用紙の所定欄に記入しなさい。

2015年に起きたヨーロッパの難民危機は記憶に新しい。シリア紛争を契機として大規模な人の移動が起こり、主たる流入先となったEU諸国は対応を迫られた。

紛争や戦争が人の移動を引き起こす事は事実だが、歴史を振り返れば、そうした原因によらない移動もあった。移動の原因は多様であり、また複合的でもある。19世紀以降に限っても、飢饉を原因とするアイルランド人のアメリカ合衆国への移住、カリフォルニアやオーストラリア各地での金鉱発見によるゴールドラッシュ、ボグロム(ユダヤ人に対する集団的な略奪や虐殺)の頻発に端を発するロシア帝国内外へのユダヤ人の移動があった。その後も、条約に基づくトルコ共和国とギリシアの住民交換、第二次世界大戦中・戦後の東欧各地からのドイツ人の移動、同戦後の南欧やトルコからの仏独や北欧への労働移民の流入など、例を挙げればきりが無い。

他方で、移動を妨げる要因も多様である。移動手段や資金、言語能力など当人に関わる要因がしばしば移動の成否を左右する。また、法律や制度などの政治・社会的要因によって移動が制限されることも少なくないが、こうした様々な障壁によっても人の移動は止まることはない。

2017年現在、世界には約2億5800万人の移民がいるという報告がある。ただし、移民について、特に本来の居住国を離れた国際移民について、正式な定義があるわけではない。国際連合の国際移住機関(IOM)は、当人の法的地位や移動の理由、自発的か非自発的かは問わないと定義しており、これに従えば、難民を移民から区別するのは難しく、相当広い範囲の人々が移民に含まれることになる。

- (1) インドシナ難民(ベトナム・カンボジア難民)を発生させた要因として適当でないのはどれか。
- a カンボジアにおけるヘン・サムリン政権の発足 → カンボジア人民共和国 VS シハヌーク、反ベトナム
 - b 中越戦争の勃発 → 難民 (注) ヘン・サムリン
 - c ベトナムにおける「ドイモイ」の採用 → ゆるやかな市場拡大
 - d ラオス人民民主共和国の成立 → 裕福な人々を殺す → 難民
- ↓
カンボジア内戦 → 難民

- (2) シリアについて正しい説明はどれか。
- a クウェートに侵攻した。→ byイラク
 - b 首都バグダードはハールーン=アッラシードによって造営された。
 - c フランスの委任統治領であった。→ アッバース朝2代、マンヌール
 - d ワフド党を中心に独立運動が起こった。→ inエジプト

- (3) 現EU加盟国について誤っている説明はどれか。
- a イギリスは、1973年にEC(ヨーロッパ共同体)に加盟した。
 - b クロアチアは、2004年にEU(ヨーロッパ連合)に加盟した。
 - c スペインは、1978年憲法で民主的な君主制に移行した。
 - d ルーマニアでは、反政府運動の中で、大統領夫妻が処刑された。

- (4) アメリカ合衆国大統領について正しい説明はどれか。 1972、ニクソン 米中共同宣言 → 1979、カ-9、米中国交正常化
- a カーター大統領は、訪中して毛沢東との間で国交正常化を実現した。
 - b クリントン大統領は、ブラハで核廃絶演説を行った。
 - c ジャクソン大統領は、先住民(強制)移住法を定めて先住民から土地を奪った。
 - d セオドア=ローズヴェルト大統領は、農業調整法によって農産物の生産調整と価格の安定をはかった。
- この時、毛沢東は死んだ

- (5) 帝政期ロシアについて誤っている説明はどれか。
- a アラスカをアメリカに売却した。
 - b ストルイビン首相の下、農村共同体(ミール)が解体された。
 - c 日本との間でポーツマス条約を締結した。
 - d ルーマニア王国の一部であったベッサラビアを併合した。 → 帝政期ではなく、ソ連時代

- (6) 第二次世界大戦中の出来事を古い順に並べた場合、3番目に来るものはどれか。
- a ソ連によるフィンランド侵攻
 - b ドイツとイタリアによるアメリカ合衆国への宣戦
 - c 日ソ中立条約の締結
 - d 日独伊三国同盟の結成
- a → d → c → b

- (7) フランスとドイツをめぐる20世紀の出来事について正しい説明はどれか。
- a イギリス、ドイツ、フランス、ベネルクス3国で集団的自衛権を目的とした西ヨーロッパ連合条約が締結された。
 - b ヴィシー政権がドイツ占領に抵抗を示すと、レジスタンスがこれに協力した。→ ヴィシー政権は親独政権
 - c フランスとベルギーによるルール占領後、フランスでボワンカレ内閣が成立した。→ ボワンカレ内閣がルール占領を執行
 - d フランスのミッテラン大統領がドイツのコール首相とともに、ヨーロッパ統合を推進した。
- ワシントン条約

- (8) 北欧諸国について、誤っている説明はどれか。
- a スウェーデンは、北方戦争に敗れてバルト海の覇権を失った。
 - b デンマークは、シュレスヴィヒ・ホルシュタインを1864年に失った。
 - c 「近代劇の父」と称されるノルウェーの劇作家イブセンは、『人形の家』を発表した。
 - d フィンランドは、第一次世界大戦後、スウェーデンから独立した。
- ロシア

- (9) 移動や輸送の手段について、誤っている説明はどれか。
- a 18世紀後半、イギリスで国内の輸送路として運河網が形成された。
 - b 19世紀前半、マンチェスター・リヴァプール間の旅客鉄道が開通した。
 - c 第一次世界大戦中、戦略爆撃機やジェット機の開発により、長距離飛行が可能になった。
 - d 20世紀前半、フォードが、ベルトコンベア式による自動車の大量生産に成功した。→ 第二次世界大戦で使用
- WWIは、航空機、音ガス、戦車、塹壕戦、機関銃、潜水艦、南北戦争

- (10) 移民について述べた次の文①と②の正誤の組合せとして、正しいものはどれか。
- ① オランダ独立戦争でアントウェルペンがスペインに侵略されると、多数の商工業者が北部に亡命した。
 - ② 1924年にアメリカ合衆国で、アジア系移民を促進する移民法が制定された。→ 1924年の移民法は排日移民法であった。
- a ①-正 ②-正
 - b ①-正 ②-誤
 - c ①-誤 ②-正
 - d ①-誤 ②-誤

中国人移民は、1882年、
中国人労働者移民排斥法(排華法案)の禁止事項として、要注

設問A オーストラリアで支配的であった白人優先と有色人種排斥の思想を何というか。

設問B 1923年にセーヴル条約にかわる新たな講和条約として締結された空欄に当てはまる条約の名を記せ。

A. 白豪主義

B. ローザンヌ条約

3 元と明について述べた以下の文章を読み、下線部(1)~(10)に関する問いについて、a~dの選択肢の中から答えを1つ選び、マーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。また、波線部A、Bに関する問いの答えを、記述解答用紙の所定欄にすべて漢字で記入しなさい。

13世紀にモンゴル軍がユーラシアの大部分を征服すると、広大な交易圏が形成されて地域間の交流が活発となった。中国に成立した元王朝も、⁽¹⁾ 対外交易を背景にしてそれまでの中国王朝には見られなかったほど、飛躍的に商業を発展させた。モンゴル時代にはユーラシアを⁽²⁾ 広範囲に結ぶ陸路と海路の交通網が⁽³⁾ つながり、海上交易においては、イタリア商人の地中海、⁽⁴⁾ ムスリム商人のインド洋、そして中国商人の東・南シナ海のように、大きく三つの海域世界が形成され、それぞれが相互に交流した。後のヨーロッパ諸国のアジア進出は、こうしたことが前提となって実現したのである。

元に代わった明は、初期には北方の北元と対立したので、対外交易は内陸貿易よりも海上貿易に重きがおかれた。しかし、明は朝貢貿易体制を採用し、民間貿易を厳しく取り締まった。⁽⁵⁾ この貿易方針は明の中ごろまでは国策とされ、永楽帝による鄭和の遠征も、南海諸国に明への朝貢を促す目的をもっていた。一時は安定していた朝貢体制は、16世紀になると⁽⁶⁾ 密貿易の横行や大航海時代の影響で⁽⁷⁾ 揺らぎ始め、明代後半期の社会は⁽⁸⁾ 変容していった。以前ほど貿易は統制されなくなり、それにと⁽⁹⁾ もなって西洋の思想が中国に⁽¹⁰⁾ 伝わった。民間貿易の隆盛とともに国内経済も進展し、商業の発展を背景にして新興商人階層が台頭した。しかしながら、その一方で社会的な貧富の格差が進み、そこに陝西地方を襲った大飢饉が追い打ちをかけ、同地方で民衆暴動がおこった。この暴動は反乱に発展し、大勢力となった反乱軍が北京に攻め込んで明は滅んだ。_B

(1) モンゴルの勢力拡大について、誤っている説明はどれか。

- a 中央アジアにアルマリクを中心の一つとするチャガタイ=ハン国を建てた。
- b オゴタイは金を滅ぼして華北を領有し、高麗を降伏させて属国とした。
- c 中国と西方との通商の要衝にあった西夏は、モンゴル軍によって滅ぼされた。
- d フビライはチャンパーに遠征軍をおくった。

(2) 元の時代の中国について、誤っている説明はどれか。

- a 元の初めには科挙が行われず、士大夫が官界で活躍する機会は少なかった。
- b 『世界の記述』には泉州の繁栄について記されている。
- c 貨幣として金・銀などのほかに、多額の取引に便利な交鈔が発行された。
- d 元は農耕社会の内部に干渉したので、佃戸を使用する大土地所有制は縮小した。

- 基本的な北方民族は、漢化政策とてり、中国古来の土地制度などもいじらない。

(3) 陸路・海路の交通や交流について、誤っている説明はどれか

- a 9世紀にウイグルの遊牧政権が崩壊すると、ウイグル人の一部はオアシス地域に移住して内陸交易を担うようになった。
- b 西トルキスタンに^{ロイアン}下ルコ人がサーマーン朝を建てて自立すると、トルコ系住民のイスラーム化が進んだ。
- c 元の時代には、大都と江南を結ぶ交通路として隋以来の大運河が補修され、さらに新運河が開削された。
- d 元の時代には、長江下流域から山東半島を経由して大都に物資を輸送する海運が栄えた。

モンゴル例外もあつてね。(均田制、北魏など)

- (4) インド洋貿易について、誤っている説明はどれか。
- a ムスリム商人はインド商人から香辛料などの物産を買い付け、それを紅海経由で西方に運んだ。
 - b インド洋沿岸諸都市にはムスリムの居住地が作られ、イスラーム世界のディーナール金貨がインド洋一帯に流通した。
 - c 南インドや東南アジアには、政治的独立性をもつ港市国家が多く形成されて発展した。
 - d マレー半島とジャワ島に挟まれたマラッカ海峡は、インド洋方面と南シナ海方面の交通網を結ぶ役割を果たした。

→スマトラ島

- (5) 朝貢貿易について、誤っている説明はどれか。
- a 明は朝貢許可の証に朱印状を発給したので、この貿易は朱印船貿易とも呼ばれる。
 - b 朝貢貿易は中国では以前にも行われたことがあり、明はその貿易体制を利用した。
 - c 朝貢貿易は、外国使節の献上品と中華皇帝の回賜品の交換を中心とした。
 - d 明は海禁政策により、朝貢貿易維持のために民間人の海上交易を取り締まった。

1402~1424

- (6) 明の永楽帝の在位と時代的に重ならないものはどれか。
- a イヴァン3世のツァーリ自称 1480
 - b グラナダのナスル朝 1492
 - c フスの処刑 1444年、コンスタンツ公會議
 - d 教会大分裂(大シスマ) 1378~1414

- (7) 日本の五島列島を拠点として密貿易をおこなっていた中国出身の首領は誰か。
- a 王直
 - b 韓山童
 - c 尚巴志
 - d 李贄

- (8) 明の時代の社会について、誤っている説明はどれか。
- a 北方のモンゴルや東南方面の倭寇の活動が激化し、明はその対応に苦慮した。
 - b 日本の銀やアメリカ大陸の銀が大量に中国に流入した。
 - c 人頭税と土地税を銀に一本化する地丁銀制が施行された。
 - d 都市には郷紳などの富裕な人々が集まり、庭園を築くなどして文化的生活をおくった。

地丁銀制は清代

- (9) 明の時代の経済について、誤っている説明はどれか。
- a 張居正の行った財政改革は東林派に支持された。
 - b 山西商人や徽州商人のような特権商人が全国的に活動した。
 - c 江西省の景德鎮で生産される陶磁器は明の代表的な輸出品であった。
 - d 同郷出身者や同業者は互助のために各地に会館や公所を置いた。

張居正の財政改革 → 反発
東林派 vs 非東林派

- (10) 新興商人階級の富と欲望の生活を描いた明代の風俗小説はどれか。
- a 金瓶梅
 - b 紅樓夢
 - c 水滸伝
 - d 西廂記

設問A イエズス会宣教師マテオ=リッチと協力して、エウクレイデスの著作を漢訳して『幾何原本』を著した人物の名を記せ。
A. 徐光啓 陳光啓

設問B この反乱の指導者の名を記せ。
B. 李自成 李自成

- 4 インドの歴史について述べた以下の文章を読み、下線部(1)~(10)に関する問いについて、a~dの選択肢の中から答えを1つ選び、マーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。また、波線部A~Cに関する問いの答えを、記述解答用紙の所定欄に記入しなさい。

インドのイスラム化はガズナ朝、ゴール朝のインド侵入に始まる。ゴール朝の将軍アイバクが1206年にデリーで自立し、インドで最初のイスラーム王朝を建設した。その後、デリーを首都とする五つのイスラーム王朝が続いた。⁽¹⁾
 カブールで勢力を培っていたバーブルは1526年にデリーを占領し、ムガル朝を建てた。バーブルの孫アクバルはヒンドゥー教徒と宥和政策をとり、北インドからアフガニスタンにいたる広大な地域を征服した。ムガル帝国期、イスラム教はインド全域に広まり、ヒンドゥー教と融合したインド・イスラーム文化が発達した。しかし、17世紀後半にはデカン高原のマラータ王国の抵抗や、シク教の反乱が長期化し、ムガル帝国の権威は揺らぎ始めた。⁽²⁾
 18世紀、イギリス東インド会社がフランスを破り、諸王国を服従させ19世紀半ばまでにインド全域がイギリスの支配圏に入った。イギリスが宗教的な対立を利用して民族運動を分裂させようと、1905年にベンガル州をムスリムの州とヒンドゥー教徒の州にわけるベンガル分割令を出すと、全土で反対運動が広がった。⁽³⁾
 独立運動はやがて宗教対立によって分裂し、ガンディーやネルー率いる国民会議派が全インドの独立を、ジンナーの率いる政党はムスリム国家パキスタンの建国を主張した。その結果、1947年、インドとパキスタンはイギリス連邦内の国家として別々に独立し、両国の対立は現在に至るまで続いている。⁽⁴⁾

- (1) 奴隷王朝を倒して建国し、地租の金納化などの経済改革を実施したのはどれか。
a サイド朝 b トゥグルク朝 c ハルジー朝 d ロディー朝

- (2) バーブルは以下のどの王朝の皇室の血を引くか。
a カージャール朝 b タウンゲー朝
c ティムール朝 d ムワッヒド朝

- (3) アクバルについて、正しい説明はどれか。
a ザミンダーリー制により支配層を組織化した。
b チャガタイ・トルコ語で回想録を記した。ムガル帝国の公用語はペルシア語
c 首都をアグラに選じた。
d ムスリムのラジプート諸侯と婚姻関係を結んだ。
ラジプートはヒンドゥー教、ムスリムじゃない!

- (4) インド・イスラーム文化の代表的建築タージ=マハルを建てたのは誰か。
a アウラングゼーブ b シャー=ジャハーン
c ナーナク d ラーム=モーハン=ローイ

- (5) シク教の第四代教主が本山を創建したのはどの都市か。
a アグラ b アムリットサル
c ジャイブル d ラホール

(6) 下線部について述べた次の文①と②の正誤の組合せとして、正しいものはどれか。

① イギリス東インド会社のクライヴは1757年、フランスとマラーター王国の連合軍を破った。

② インド総督デュプレクスは第三次カーナティック戦争で敗北した。

- a ①-正 ②-正 b ①-正 ②-誤
 c ①-誤 ②-正 d ①-誤 ②-誤

フランス
 第1,2次カーナティック戦争を優位に
 進め、1754年、本国政府と対立し召還せられ、戦況不利 → 第3次で敗北

(7) イギリスがインドで行った戦争について、次の①～④が、年代の古いものから順に正しく配列されているのはどれか。

- ① グルカ戦争 1814～16 (vs ネパール)
 ② シク戦争 1845～
 ③ ブクサールの戦い 1764
 ④ マイソール戦争 1775～

4 2 1
 3 → 4 → 1 → 2

- a ③→①→④→② b ③→④→①→②
 c ④→②→③→① d ④→③→②→①

(8) イギリス支配下のインドについて、誤っている説明はどれか。

- a アッサムなどで茶のプランテーション農業が推進された。
 b イギリスはクリミナル=トライブ法を制定し、特定集団を世襲的犯罪者として管理した。
 c イギリスはムガル皇帝を廃し、ヴィクトリア女王をインド皇帝とした。
 d 1885年、インドの諸問題を話し合うためボンベイで英印円卓会議が開かれた。
 → 1930年

(9) 1906年採択のカルカッタ大会四綱領に入らないものは、以下のどれか。

- a 非暴力・不服従 b スワデーシ
 c スワラージ d 民族教育

(10) インドとパキスタンの対立について、誤っている説明はどれか。

- a インドは1974年に、パキスタンは1998年に核保有国となった。
 b 第一次印パ戦争はカシミールの帰属を争って始まった。
 c 第三次印パ戦争は西パキスタンの独立要求をインドが支持してはじまった。→ その後、東パキスタンは独立し、
 → 東
 d 両国の分離独立に際してはムスリムとヒンドゥー教徒の衝突により多数の死者が出た。 "バングラデシュ" となる。

設問A アイバクが建設を開始した大モスクの塔の名を記せ。

設問B パーブルがロディー朝軍を破った1526年の戦いの名を記せ。

設問C この政党の名称を記せ。

A、クトゥブ=ミナール

B、パーニ=パットの戦い [以下余白]

C、全インド=ムスリム連盟

クトゥブ=ミナール
 パーニ=パットの戦い
 全インド=ムスリム連盟

高橋
 高橋